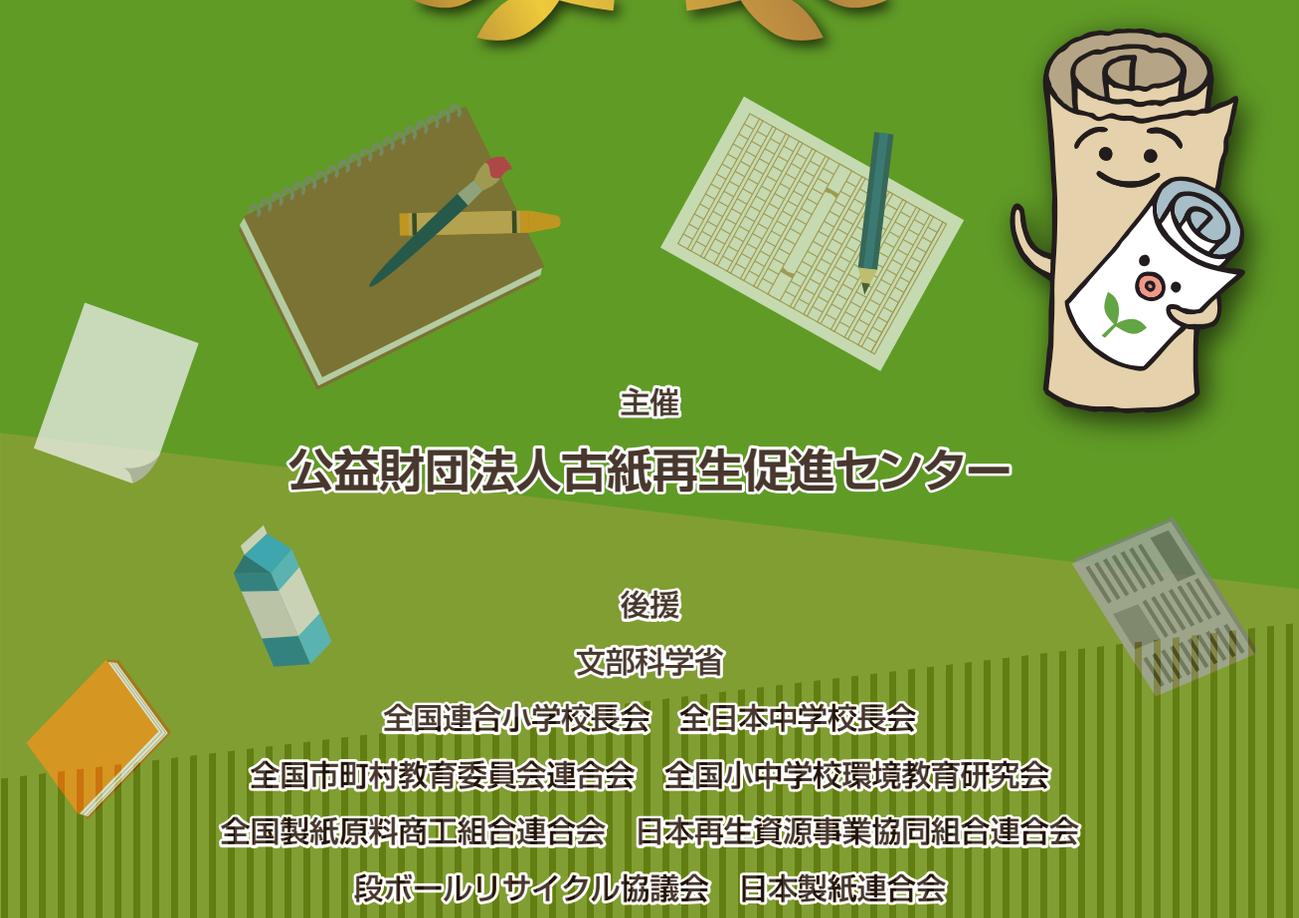




“紙リサイクル” 全国小中学生 コンテスト2024

入賞者一覧・受賞作品 作品集



主催

公益財団法人古紙再生促進センター

後援

文部科学省

全国連合小学校長会 全日本中学校長会

全国市町村教育委員会連合会 全国小中学校環境教育研究会

全国製紙原料商工組合連合会 日本再生資源事業協同組合連合会

段ボールリサイクル協議会 日本製紙連合会

2024年度 入賞者一覧



文部科学大臣賞

東京都 昭和女子大学附属昭和中学校 3年
作文部門 **柳田 真緒** 紙を捨てる概念がなくなる日のために

山形県 山形大学附属小学校 6年
ポスター部門 **佐藤 綾芽** 広がれ!! つながれ!! 紙のリサイクル



金賞

愛媛県 愛媛大学教育学部附属小学校 1年
作文
小学生部門 **若狭 早** リサイクルのヒーロー

愛知県 愛知教育大学附属岡崎中学校 2年
作文
中学生部門 **小山 るか** 雑がみは立派な資源

茨城県 龍ヶ崎市立八原小学校 4年
ポスター
小学生部門 **川島 颯記** 広げよう 紙リサイクルの輪

愛知県 刈谷市立依佐美中学校 3年
ポスター
中学生部門 **江坂 蒼依** 捨てないで紙パック!



特別金賞

全国製紙原料
商工組合連合会
理事長賞 神奈川県 アトリエ ENDO 6年
浜田 涼菜 紙はリサイクルでよみガエル
(ポスター)

日本再生資源事業
協同組合連合会
会長賞 福岡県 明治学園小学校 5年
能美 にな 新しいステージへ
(作文)

段ボール
リサイクル協議会
会長賞 静岡県 浜松市立三方原中学校 1年
梶浦 美奈 紙リサイクルは続くよどこまでも
(ポスター)

銀賞

	部門	都道府県	学校名	学年	氏名	タイトル
作文	小学生部門	東京都	筑波大学附属小学校	6	藤本 怜央菜	紙パックの回収率を上げる第一歩
	中学生部門	神奈川県	横浜市立中川西中学校	2	村越 遼	「知ることは「変わること」
ポスター	小学生部門	千葉県	流山市立おおたかの森小学校	6	永井 秀弥	未来につながる紙リサイクル
	中学生部門	山口県	岩国市立岩国中学校	2	岡迫 ひより	古紙と運命の再会

銅賞

	部門	都道府県	学校名	学年	氏名	タイトル
作文	小学生部門	東京都	東村山市立八坂小学校	3	三春 沙帆	生まれ変わる紙、私。お母さん？
		茨城県	開智望小学校	4	小磯 道允	待ちわびた紙の卒業式
		兵庫県	神戸市立西灘小学校	4	伴野 雅	小さな習慣から始める紙リサイクル
	中学生部門	神奈川県	横浜市立中川西中学校	2	浦 星奈	興味が湧いたら世界は変わる
		静岡県	静岡市立清水飯田中学校	2	菊池 未夢	未来のために私に出来ること
		静岡県	静岡市立清水飯田中学校	2	橋本 茉裕	地球を守る紙リサイクル
ポスター	小学生部門	福岡県	古賀市立古賀東小学校	2	大嶋 陽葵	かみが大へんしん
		愛知県	キッズ絵画アート教室	3	山本 朝陽	かみは、リサイクルボックスにに入れてね！
		福岡県	北九州市立北方小学校	4	廣田 琴美	さあ、循環型社会へ、出発進行！
	中学生部門	愛媛県	今治市立大三島中学校	1	木村 佳奏	リサイクル is 紙ング
		山口県	岩国市立岩国中学校	1	瀬戸川 優衣	笑顔のリサイクル
		山口県	岩国市立岩国中学校	1	森本 穂乃佳	僕達の居場所

学校奨励賞

小学校部門

東京都
荒川区立第三日暮里小学校

中学校部門

広島県
広島市立二葉中学校

学校特別賞 今年度受賞校なし

目次

3-4P	文部科学大臣賞受賞作品
5-8P	金賞受賞作品
9-11P	特別金賞受賞作品
12-13P	銀賞受賞作品
14-19P	銅賞受賞作品
20P	学校奨励賞受賞校紹介
21P	審査会ノミネート校・教室一覧
22P	古紙再生促進センター活動紹介

応募総数： 2,955 点

応募校数： 121 校 教室、塾など： 8 校 個人応募数： 43 件



文部科学大臣賞 作文部門

昭和女子大学附属昭和中学校 3年

柳田 真緒

紙を捨てる概念がなくなる日のために

「たったこれだけの紙だから、面倒臭いし、燃えるゴミに捨ててしまえば良いでしょ。」私は何度もこの言葉を耳にしたことがある。この言葉は私が学校の環境団体に活動している時、よく周りから聞く言葉だ。

私は小学校三年生のときカナダへ旅行に行った。その時に初めて氷河を見て、地球温暖化による氷河融解の影響が身近に迫っている事を知り、環境問題に興味を持つようになった。現在、私は学校の環境団体に生徒や先生方の環境問題に対する意識を変えするために日々活動をしている。

今年の四月、私は学校で、各教室一つずつ設置してある紙資源専用のリサイクル箱が適切に使用されていない事を知った。また、大量のリサイクル可能な紙が燃えるゴミに捨てられ、リサイクルされていなかった。紙資源専用のリサイクル箱が適切に使用されなくなった背景に、引き継ぎが行われなかった事や主導する人が曖昧だった事が判明した。このままでは学校で紙資源がリサイクルされなくなってしまうと思った。もう一度、紙資源専用のリサイクル箱を、全校で使ってもらったための対策を立てるために考えた。

私は、常に活動を進められる委員会と協力する事で、私が卒業した後もこの活動を継続していきたいと考えた。委員会との協議の結果、「リサイクルアドバイザー」として、各学年に紙リサイクルを

主導する係を設置し、紙リサイクルを促進させる事に決まった。

現在、数ヶ月に渡って計画してきた計画の実行段階に入っている。今後も試行錯誤を続け、どんな事があっても揺るがない仕組みを構築させたい。そして今後、私の作った基盤を基に紙のリサイクルが何十年も先まで、我が校で続くことを願っている。

一人の生徒の小さな一歩が、一つの学校の多くの生徒の大きな一歩となる。その動きは他の学校にも広がり、より大きな一歩となる。そして、日本中での動きが起されれば、世界に影響を与えたいと思う。

私達は気候変動に対して行動できる最後の世代とされている。長期的な目標を実現するために、私自身が他人を巻き込み、勇気を持って一歩を踏み出したい。最初の一歩は、誰も気づかない程小さな一歩だと感じる。強い意志を持って行えば、他の人に影響を与え、前向きな変化をもたらす事ができると思う。今後、何回も色々な人や問題の壁に突き当たる事があるだろう。だが、どんな時でも挫けず、仲間と共に、環境活動を積極的に進めたい。そして、全校生徒が紙リサイクルや他の環境活動に積極的に参加するようになる事を願っている。やがてその動きが広まり、日本中で紙を「捨てる」という概念を「捨てる」事ができる日が来る事を願って、これからも活動を続けたい。



文部科学大臣賞 ポスター部門

山形大学附属小学校 6年

佐藤 綾芽

広がれ!! つながれ!! 紙のリサイクル



作文小学生部門

金賞

愛媛大学教育学部附属小学校 1年

若狭 早

リサイクルのヒーロー

かっこいいことばが、ぼくはすきだ。みんなのためにかんばる「ヒーロー」ということばは、とてもかっこいい。ヒーローが本に出てくるとぼくはわくわくする。そしていま、ぼくにとってかっこいいことばは「かみリサイクル」だ。つかったかみをあつめて、しげんにする。そのしげんをあたらしいかみにして、またつかう。かみが生まれかわっていくしくみは、かんきょうにやさしい。だからぼくは、かみリサイクルが大すきだ。

ぼくのすんでいる町、まつやまは「人口五十分まん人いじょうのとしの、一人一日あたりのごみのりょう」が九年れんぞくで一ばんすくなかったそうさだ。ぼくはおかあさんに、「どうしてごみをへらせたのかな。」ときいた。おかあさんは、

「まつやまにすむ人が、おうちでもかいしゃでも、しげんをすてずにリサイクルしたおかげだよ。ぶんべつ上手はヒーローだよ。」といった。かっこいいことばは、はっけん。しげんの「ぶんべつ上手」ということばをして、ぼくもなりたいたいとおもった。

だからぼくは、おうちでどんなぶんべつをしているのかしらべることにした。

ぎゅうにゆうパックはあらってほす。しんぶんしはまとめてしぼる。だんボールはついているテープをせんぶはがして、おりたたむ。ぎつがみには、よごれたかみやフィルムなどが入らないようにする。ぎつがみのルールはしらないことがいっぱいあったけれど、おうちにある「はやわかりちよう」のおかげで、すぐにルールがわかるようになった。まつやましでは、しげんをぶんべつするための「はやわかりちよう」をつくっている。イラストがたたくさんあって、小学一年生のぼくにもわかりやすい。おかあさんのかいしゃもこのイラストを大きくはって、ぶんべつ上手をふやしていたそうさだ。

ぶんべつは、しげんになるものをなかまわけすること。ぼくはつかったかみのぶんべつ上手になって、かみリサイクルのわをひろげたいとおもう。ぶんべつ上手なりサイクルのヒーロー、ぼくのきめせりぶはこれにきまり。

「つかったかみは、リサイクル。」

作文中学生部門

金賞

愛知教育大学附属岡崎中学校 2年

小山 るか

雑がみは立派な資源

私の家では、雑がみをリサイクルできるようにきちんと分別している。それはおばあちゃんが雑がみを分別していたのを見て、我が家でも自然に分けることが当たり前になった。お母さんは、

「燃えるごみが減るから助かる。」

と言っていた。ここで私は思った。今までは当たり前前に雑がみを分けていたけれど、どのようにリサイクルされるのか全然知らない。そこで雑がみについて調べることにした。

調べてみると、雑がみとして回収できるものと、回収できないものがあると書いてあった。例えば、臭いがついているものや食品が付着したもの、また防水加工やアルミコーティングされているものは、リサイクルができないため、回収することができない。

しかし、古紙再生促進センターのホームページには、「雑がみ回収では、リサイクルできない紙類と異物の混入が多い」と書かれていた。私は、雑がみに対する知識が広まっていないと感じた。

また、回収するにもルールがある。当然だが、バラバラに出してはいけない。ひもで縛るか、紙袋に入れてバラバラになるのを防がなければならない。確かに、お母さんも紙袋に入れて回収ボックスの中に入れていた。私が住んでいる豊橋市は、雑がみを入れる「雑がみ分別お試し袋」を配布しているらしい。しかし、数

に限りがあり、なくなり次第終了で自分で取りに行かなければならない。もし雑がみを資源としてリサイクルしたいのならば、各家庭に配布したり、もしくは回収場所に雑がみを持ってきてくれた人に、次回も持ってきてもらえるように配布するなどしたら、もっと雑がみを持ってこようと思う人が増えるのではないだろうか。

今回雑がみについて調べることにより、いくつかの問題点があることがわかった。その全てが雑がみに対する知識が全然足りていないということだ。ここで少し提案だが、燃えるごみなどを出すごみステーションに、分別や回収場所が書かれた看板や貼り紙を設置したり、回収ボックスが設置されている店舗の入り口に貼り紙を貼ったりして、色々な人の目にふれるようにしたら、もっと雑がみのリサイクルが増えると思う。せっかく回収ボックスが色々なところにあるのに、もったいないと思う。自治体が回収する場所の他に、民間でも回収をしているのだから。特に民間の回収場所は、買い物ついでに寄ることも可能だ。

雑がみは立派な資源なのだから、新たに命をふきこんで、新しいものとして生まれ変わるべきだと思う。少しでも多くの方が、雑がみを捨てる前にリサイクルできるのではないかと、考えてくれることを願う。私はこれからも、雑がみのリサイクルを続けていく。

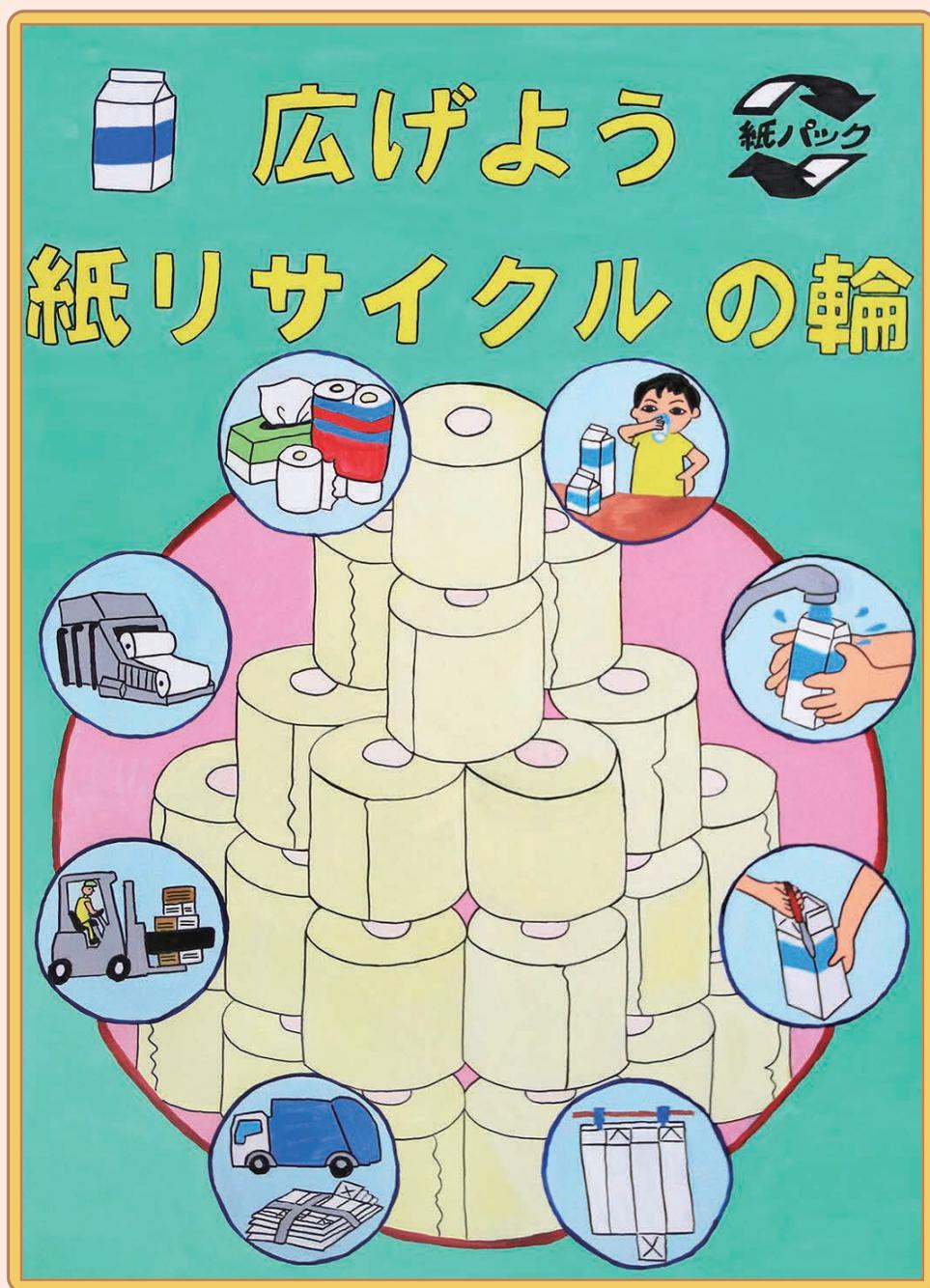
ポスター小学生部門

金賞

龍ヶ崎市立八原小学校 4年

川島 颯記

広げよう 紙リサイクルの輪



ポスター-中学生部門

金賞

刈谷市立依佐美中学校 3年

江坂 蒼依

捨てないで紙パック！



全国製紙原料商工組合連合会 理事長賞

特別
金賞

アトリエ ENDO 6年

浜田 涼菜

紙はリサイクルでよみガエル



特別
金賞

明治学園小学校 5年 能美 にな 新しいステージへ

五年間、紙リサイクルについて勉強してきた。古紙回収を進めるためには雑がみ回収がカギとなることも知った。自治体に提案したことが、市内の雑がみ回収啓発イベントのきっかけにもなった。意識と知識と実行力。この三つの重要性を感じた。

イベントから一年。雑がみという言葉すら知らなかった友人は、今もリサイクルを続けているという。一方、イベントには参加したものの、分別が面倒でリサイクルをやめてしまった人もいた。イベントだけでは、持続性という面で不十分であることがわかった。

確かに他の古紙と違い、雑がみという区分はわかりにくい。リサイクルできる古紙の中で段ボール等『ではない』もの。さらに『禁忌品』ではない『もの』。頭の中の古紙チェックリストを毎回確認する必要がある。この『難しい分別』こそが雑がみ回収の持続性を阻む一因かもしれない。

私は改めて雑がみについて調べてみた。古紙の排出区分の中に雑がみが入ったのは主に二千年以降。つまり、ほとんどの大人たちが子どもの頃、雑がみという考え方がなかったのだ。母も私が古紙の勉強を始めるまで、雑がみを知らなかったらしい。実際、市民の六十パーセント以上が雑がみという言葉を知らない自治体もあった。つまりどんなに私達子どもが雑がみのことを知っていても、社会という

大きな範囲でみると、残念ながら、新聞紙や段ボールと比べて、雑がみの存在はまだまだ浸透していないのだ。それならば、雑がみが『有名』になれば、知名度とともに回収率も上がってくるのではないか。

一年前、北九州市で二日間行った雑がみ回収啓発イベントは大盛況だった。雑がみという存在を知った市民が集めた量は、これからの明るい未来を感じさせた。やはり雑がみという考え方が広がること、回収をすすめるカギなのだ。雑がみを正しく分別できる人が増えれば、それはやがて社会の『常識』となる。イベントだけでは終わらない、持続性のあるリサイクルも定着してくるに違いない。

私は今、大学での講演の準備を行っている。大人の講演者に混ざって、自分の考えを壇上で話す機会を与えられたのだ。私が話すテーマに選んだのは、もちろん『雑がみ』。持続可能な雑がみリサイクルを進めていくために、まずは大勢の聴衆に雑がみの存在を知ってもらう。分別方法を知ってもらう。自分だけではなく、周りの人に輪を広げていくこと。私の新たな挑戦だ。

これからの雑がみ、ひいては古紙のリサイクルに必要なキーワードは、意識と知識と実行力。それに『持続性』だ。実現のためにはまずは皆で知ること、知らせること。それができたとき、日本の古紙リサイクルはまた新しいステージへと上がっているはずだ。

段ボールリサイクル協議会 会長賞

特別
金賞

浜松市立三方原中学校 1年

梶浦 美奈

紙リサイクルは続くよどこまでも



紙パックの回収率を上げる第一歩

私は四年生の時に、清掃工場と最終処分場の社会科見学がきっかけでリサイクルへの関心が深まった。それ以来、私はどうしたら紙パックの回収率が上がるのかを考えている。

最近では脱プラスチックの動きもあり、飲料や調味料の容器としての紙パックの活用が増えてきている。化石燃料を原料としているプラスチックの使用量を減らす流れは良い方向だと思う。しかし、ただ単にペットボトルを紙パックに変えれば良いのだろうか。紙パックのリサイクルを応援する気持ちを込めて、より良いリサイクルの仕組みを実現するための課題を考えたいと思う。

まず、使用済み容器の回収率を比較してみると、ペットボトルは九四・四％に対して、紙パックは二九・四％と大きく差がある。これは、リサイクルするまでのアクションの数の違いが原因だと思う。ペットボトルは飲み終わったら、そのままペットボトル専用のゴミ箱に捨てることができる。そのゴミ箱は、駅やコンビニエンスストアに必ず設置しており、無意識に分別をできるようになっている。一方、紙パックは洗って開いて乾かさないと衛生的なりサイクルができない。つまり、飲み終わってから、リサイクルできる状態になるまで時間と手間を必要としている。それに、紙パック専用のゴミ箱は、身近に感じられるほど数多く置かれていないのが現状である。

次に、素材についてはどうだろうか。ペットボトルはサイズや中の飲料の種類が変わっても、素材が同じで、細かいデザインや形状が異なる。紙パックは一見シンプルな形状ではあるが、中の飲料によってキャップ付きの紙パックにしたり、アルミ付きの紙パックを使用したりと、飲料メーカーのニーズに合わせたデザインが増えている。特に長期の常温保存に適しているアルミ付き紙パックは、今後の活用が期待される容器である。しかし、アルミ付き紙パックの小型のジュース飲料などは、一回で飲み切ることが多い。リサイクルするためには、毎回飲み切るたびに洗って開くことになるので、この動作をめんどりに感じるのも致し方ないように思う。

このように紙パック、アルミ付き紙パックが多く活用されても、リサイクルの仕組みはまだ完全に整っていないとは言えない。結果的に、リサイクルが可能な素材であるにもかかわらず、多くの紙パックが可燃ゴミとして捨てられてしまう。ここから、紙パックが便利に回収されて、すべての紙パック容器がリサイクルされるにはどうしたらいいだろうか。回収率を上げる第一歩はリサイクルのための手間をなくすことだと思う。そこで、私は紙パックの飲み残しの量について研究をしている。目指すのは、飲み残しがない紙パックの開発だ。洗わずに回収できる紙パックが未来の飲料容器として当たり前になり、あらゆるゴミ箱で紙パックが分別されることを私は今から夢見ている。

「知ること」は「変わること」

私が通う中学校の廊下をずっと進んだ先、普段はあまり通らない学校の隅っこには、学校中で出たゴミが集められ、美化委員や技術員さんが分別をしてくれている。様々な種類に細かく分けて処分されているのだが、その中でも特に紙の分別は種類や紙の色、汚れ具合で分別がなされていることに気がついた。

私の住んでいる横浜市では、紙類は新聞紙・雑誌・段ボール・紙パック・その他の紙ごみの五種類に分別して古紙として回収し、再生紙としても一度利用しているのだという。紙類であっても、点字などの感熱発泡紙や汚れた紙、アルミやビニールのコーティングがされている紙は古紙には混ぜずに燃えるゴミとして処理するようである。また、学校から業者に資源の処理をお願いするときには、家でゴミを捨てるよりもさらに細かい分別が求められるようだ。

私はたまたまあの廊下を通るまで、学校で出たゴミやプリントの余りが一か所に集められていることも、そこですべてのゴミや古紙がもう一度分別されていることも知らなかった。教室のゴミ箱は燃えるゴミ・燃えないゴミ・再生紙の三種類だけだったので、その先でさらに細かく分ける工程があるのだとは想像することができなかったのだ。少し意識をして学校を見渡してみると、教室のゴミ箱にはどんなゴミをどのゴミ箱に捨てたらよいか、どんな紙なら古紙として扱えるのか、基準を示した紙が貼られていることに気がついた。分別の方法が一目でわかるようになっていたのに、それまでは気づかずになんとかゴミや紙をゴミ箱に捨てていた自分に驚いた。

きっと私以外にも、教室での分別方法や、自分以外の誰かが細かく資源を分別していることを知らない生徒はたくさんいて、その人たちがまた私と同じように「なんとなく」でゴミや紙類を捨ててしまっているだろう。生徒一人ひとりの「なんとなく」の積み重ねによって美化委員や用務員さんの再分別が大変になってしまったり、ゴミ箱の中で紙が汚れて本来古紙に出して再生紙に生まれ変わらせることができずにはずの資源をむだにしてしまったりするのではないかと私は考えた。

そんな私たちの「なんとなく」から貴重な資源を守るには、分別の先で古紙は再利用されること、そのために仕事をしてくれている人がいることを多くの人を知ることが大切だと考える。知ること、自分がゴミ箱に捨てた後のことを想像し、「なんとなく」による資源の無駄を減らすことができるのではないかと。生活の中で紙を最も多く使う場である学校での意識をみんなに変えることで、学校以外での古紙の分別やリサイクルのための意識や行動も変えていきたい。みんなが知り、みんなが変わることは、きっと社会全体の古紙リサイクルへの意識向上に繋がると信じて。

ポスター
小学生部門
銀賞

流山市立おおたかの森小学校 6年 永井 秀弥
未来につながる 紙リサイクル



ポスター
中学生部門
銀賞

岩国市立岩国中学校 2年 岡迫 ひより
古紙と運命の再会



作文
小学生部門
銅賞

東村山市立八坂小学校 3年 三春 沙帆 生まれ変わる紙、私。お母さん？

朝、学校に行くとき、キッチンにあるごみ袋をのぞいたら、牛乳パックがまるごと、燃やせるごみ袋に入っていた。「お母さん、リサイクルって知ってる。」と私はたずねた。

夏休みに、お母さんと一緒にリサイクルセンターに行く機会があった。学校で配布された冊子があり、私が住む多摩北部の五市の各スポットを巡って謎解きをするというものだった。施設の二階エリアから、処理の工程が見下ろせるようになっていて、順路通りに音声案内してくれる。収集車が集めたダンボールをおろし、機械で四角いかたまりになりレンガのように積み重ねられるのを見た。そのかたまりは、また違う場所に移動して新しい紙に生まれ変わる。この流れがリサイクルであることが分かった。また、紙には種類があり、新聞、印刷用紙、紙箱、段ボール、牛乳パックを古紙ということ。謎解きをしながらとても楽しく学ぶことができた。

家に帰って紙リサイクルについて調べてみたら、YouTubeでお笑い芸人の人が分かりやすい動画をたくさん出していた。ごみを出すということに責任を持ち、考えることを話していた。私には何ができるのだろう。

お母さんは「再生紙なら使っているよ」という返事だった。家には、ポストイット、「コピー紙」、ペーパータオルには再生紙マークがついていた。それらをいつも買ってくるのはお父さんだった。私は牛乳パックを分別しようと思いつきごみ袋から取り出した。「これは資源だよ。」とお母さんに伝えた。きれいに洗って干しておくことにした。私がいればいいのだ。

学校では、学期ごとに好きな会社を作ることができる。私は今、誕生日会社の社員だ。三学期にはリサイクル会社を作ろうと思う。私が社長だ。主な活動は牛乳パックを洗って持ってきてもらう。私がハサミで開く、一緒に手伝ってくれる社員がいたらすごくいい。一人でもかまわない。集まったものはお母さんにリサイクルセンターに運んでもらうことにしよう。

私ができることは分別すること。三学期になるのが待ち遠しい。

作文
小学生部門
銅賞

開智望小学校 4年 小磯 道允 待ちわびた紙の卒業式

ぼくは『けしごむくん』という絵本が大好きでした。この本は、小さくなって役目を終えたけしごむくんがすてられてしまふのですが、ひそかに卒業式をむかえているというお話です。ぼくはこのお話のように役目を終えた物が卒業式をむかえるお手伝いをしたいと思っていました。役目を終えても、リサイクルをすることで、まただれかの役に立てるとさらに良いのではと考えました。

ぼくは小学二年生の時に、お母さんからテープのしんを集めてリサイクルするイベントがある事を教えてもらいました。これを学校でおこなえば、沢山のテープのしんが卒業式をむかえられると思います。学校の先生に相談をし、協力してもらいリサイクル活動を始めました。三年生の時には沢山のしんが集まりました。クラスの友達と三人で休み時間を全部使ってしんをつぶして送りました。

学校で集めたしんは段ボールに生まれ変わります。そして、紙の原料とされる木を守れたおかげで、地球全体をよるこばせることに役立っています。この事を知ったぼくはものすごい達成感を味わいました。今年は何個のテープしんに卒業式をむかえさせてあげられるのか楽しみです。

ぼくは今年の三月末に、紙の卒業式を見ました。茨城県にある製紙工場、ぼくがずっと行きたかった古紙を再生する工場に行きました。製紙工場はとても大きくて、バスで移動しました。集められた古紙も山のように積んでありました。この工場はバイオマス燃料を使っているそうです。再生紙を作っている工場の中は、ピンと伸ばされたとても大きな紙がぐるぐる回るとロールにまかれています。ぼくはその大きさと騒音を聞いて、紙がまかれている最中に切れてしまわないかと心配になりました。工場の人に質問してみると、めったに切れる事はないと教えてもらって、安心しました。

ぼくが分別をする時に心がけていることは、本の中に入っているCDなどは、リサイクルができないので分別が必要ということです。

ぼくの家には、ぼくが勉強した沢山のプリントがありました。ぼくはプリントを大切にしまっていました。紙のリサイクル工場に行くと、多くのプリントも卒業をさせてあげたいと思い、クリーンセンターに沢山のプリントを持っていきました。多くのプリントは、きつとあの大きな紙に生まれ変わると思うとうれしくなりました。

ぼくはリサイクルできる雑誌を今まで、さりげなく燃えるゴミにすてていました。しかし、心がけて紙はよるこばせることを知りました。よるこぶのは紙だけではなく、地球、木、魚、動物など全ての生き物がよるこぶのです。あなたもたくさん紙に卒業式をむかえさせてあげ、地球全体をよるこばせてみませんか。



神戸市立西灘小学校 4年 伴野 雅
小さな習慣から始める紙リサイクル

紙リサイクルを意識するようになったのはマンションの一階に古紙を出しに行ったときのことだ。新聞や段ボール、その他の古紙がきれいに分別されていて、とても気持ち良かった。「なぜみんな紙リサイクルを日常的に行っているのだろうか?」と思いながら、私も学校で紙の切れ端を古紙回収箱に入れたり、家で紙が他の素材とまざらないように分別したりし始めた。意識して行動するうちに、家から出す古紙の量がふえ、自然と習慣になっていったのが嬉しい。私にできることなら、きっと周りの人にもできるはずだ。まずは紙リサイクルについて調べてみると、日本は世界の中でも多くの紙を作っていて、その分、古紙が出る量も多い。その古紙からたくさん再生紙が作られている。さらに日本は回収した古紙を海外にも輸出していることを知っておどろいた。日本の古紙を他国が再生紙として利用しているのと知ると、なんだか日本が世界の役に立っているようでワクワクした。私を買う商品のうらにはリサイクルのマークがプリントされていることも多く、リサイクル可能かを簡単に判断できるので、自然とリサイクルを意識できるようになっている。だんだんと、日本が紙リサイクルに対して高い意識を持っていることがわかってきた。この意識を継続して広めていくことが大切だと思う。

小さい頃の私は分別に慣れるまで、毎回「この紙はどこに集めればいいのか?」と両親に聞いていた。最初は分別が面倒だと感じることもあったけれど、分別を怠ると誰かが直さなければならず、手間がふえることがわかった。今では、妹が分別を間違えたときに正しい分別方法を教えるのが私の役目になり、妹も分らないときには私に聞いてくる。最初は面倒くさそうにしていた妹も、何度も教えるうちに分別が当たり前になってきた。最近では、妹はクイズのように「正解!」と言ってまい上がり、嬉しそうに飛びはねている。私も小さい頃、ほめられると嬉しくて、もつとがんばりたくなっていたな。今度は私が妹に教えて、妹も同じ気持ちになってくれている。心が弾むってこういうことなのかもしれない。こうして人に伝えると私も嬉しくなるし、伝えられた人も嬉しくなる。このことを妹以外にも、いろんな場所で話し合いながら、何度も伝えていけば、習慣化されていくのではないだろうか。

私は、紙リサイクルが習慣化できるように、学校の係活動にこの経験を活かしたいと思う。係活動では、グリーンマークなどを描いたポスターを作ったり、展示したり、古紙についての知識があるかどうかのアンケートを取ったり、紙リサイクルについて発表して多くの人に伝えていきたい。私にできることは小さくても、伝え続けることで紙リサイクルがもっと広がると信じている。これからも紙リサイクルを大切に、続けていきたいと思う。



横浜市立中川西中学校 2年 浦 星奈
興味が湧いたら世界は変わる

ずっと、リサイクルについてよく知らなかった。もちろん良いことだと分かっていたが一部の紙が何かになる、くらいの知識だった。紙のリサイクルは限られた人だけがしていて、自分とは無縁だと思っていた。少し前までは。

ある日、部屋の隅に大量の牛乳パックの軍勢がいるのを発見したときは驚き、なぜか興味が湧いた。正体を知ろうと母に訊くと、「毎週頼んでいる食材の宅配の会社がまとめてリサイクルしてくれるからためているんだよ。」「リサイクル」その言葉が出てくるとは。あの、紙が何かになる…無縁だと思っていたものが突如として現れた。その時はっとした。私は今更ですと、調べも訊きもせずに「リサイクル」を知った気になっていた。だから、本当のことを知りたくて、私は今更になくらい好奇心が湧いた。

そしてインターネット等で「リサイクル」できるものや、やり方を調べた。そして、ふと「雑がみ」という言葉が目についた。人生で初めて会う単語だった。いつも記憶に残すまでもなく捨てている紙や、お菓子の箱などが「リサイクル」できるという衝撃の事実だった。それは、また新しい人生を歩む紙が多くなり、ごみが減り、「環境を守る」という点でもとても画期的である。

ある日、私が机の引き出しの整理をしているとき、「リサイクル」できそうだが、頑固なテープの貼りついている雑がみに出くわした。何度も剥がそうと奮闘したがとても無理だったので仕方なくごみ箱に入れた。少し心がモヤモヤした。その晩、ふと気がついた。これは、テープを貼り放置した過去の自分にも原因があると。「リサイクル」は、する側だけでなく、作った側も将来を見据え、「リサイクル」しやすいようにすることも大事だと思った。

しかし、これまで十三年間半「燃える」「ミ」にして私がこの手で奪った紙の未来はもう戻らない。今この瞬間にも「リサイクル」できる紙は捨てられている。だが、今からでもおそくない。日本中、世界中の人が、身の周りのちよっとした事から興味を持ち、紙たちを「リサイクル」してくれる日を待ち遠しく思っている。



未来のために私に出来ること

「牛乳パック、ハサミで開けておいて。」

と母によく言われている。私は牛乳パックを開いて、集めるという工程を小さな頃から行っている。小学校でも、給食で飲んだ牛乳パックを開いて、集めるという工程を行ってきた。

小さな頃から行ってきた、いつの間にか習慣化したことだが、開いて集めた牛乳パックは、この後どうなっているのか、なぜ集めるのか、気になったので調べてみることにした。

さっそく母に、なぜ集めているのか聞いてみると、
「自治会で回収しているからだよ。それに、ゴミになるよりリサイクルしたほうが環境にもいいからね。」

と聞いた。話を聞くと、集めた後はリサイクルされるらしい。そして、自治会でその活動を行っていることに驚いた。自分たちの自治会は環境のことを考えて、紙リサイクルという活動を行っている、将来のことも考えられており素晴らしいと思った。

そして母が、

「紙リサイクルなら家の近くに回収ボックスもあるよ。」
小さな頃から近所の回収ボックスへ、母と一緒に段ボールを置きに行っていたのを思い出した。

その後、回収ボックスなどで回収された紙は、古紙問屋という所へ運ばれ、梱包機で圧縮梱包される。そして製紙工場で紙製品にされてお店に行き、各家庭に届く。家庭で使用した後また回収される。というサイクルになっている。

新聞紙は新聞紙やコピー用紙に生まれ変わり、牛乳パックなどの飲料容器パックはトレットペーパーに生まれ変わる。

紙リサイクルが一サイクルでも多く行われると、地球温暖化や生物絶滅の防止につながっていくそうだ。

大袈裟かもしれないが、私が小さな頃から取り組んでいた、家庭や給食の牛乳パック回収、自治会での取り組みなどのおかげで環境や、動物が守られていると考えると、紙リサイクルは身近で取り組みやすい、環境保全につながる取り組みの一環だと思える。

今、紙リサイクルは自治会や学校でも取り組んでおり、これはみんなが環境を良くしていきたいという思いが行動に現れているのだと思う。私は、今回紙リサイクルについて調べてみて、自治会での回収や、近所の回収ボックスなど、自分でも手軽に取り組めるものがたくさんあることが分かった。

したがって、紙リサイクルのサイクルを一サイクルでも増やせるよう、身近で行われている手軽に取り組める活動に参加するなど、紙リサイクル活動に積極的に協力して、自分たちの未来のために環境保全に貢献していきたい。



地球を守る紙リサイクル

私の学校は、給食にパックの牛乳が出ます。そして私達は、飲んだ後の牛乳パックを、開き、洗い、乾かしています。小学生の頃から習慣になっているこの行動ですが、私はその行動がどう環境に役立っているのかをよく知りませんでした。

何日かに一度、牛乳パックに印刷されている言葉があります。「リサイクルありがとう。」という言葉です。はじめは、「へえ、牛乳パックってリサイクルされていたんだ。環境を守る手伝いができたんだな」と思い、少し嬉しかったです。

そしてあるとき、学校に各クラス二つずつティッシュが届きました。それにはプリントが一枚ついてきていました。プリントには、「いつもリサイクルに協力していただき、ありがとうございます」というメッセージが書いてありました。先生は、私達の飲んだ後の牛乳パックがリサイクルされたことで作られたティッシュだと説明してくれました。身近なものに生まれ変わったそれを見て、「リサイクルはすごいんだ」と思うようになりました。

またあるとき、学校で「捨てられた雑紙でクリスマスカードを作ろう」という授業がありました。雑紙を一度液体のような状態にしてから紙を作る、という内容でした。紙からまた紙を作ることができる、とは授業で何度か聞いていたし、面白いな、と思い覚えていたので知っていました。が、実際にやってみるとなかなか難しく、「自分でやろうとするとこんなに大変なのか」とも思いました。けれど、作ったカードを持ち帰り両親に見せたとき、とても喜んでくれました。どんなふうにも体験をやったのが、たくさん話しました。ものすごく楽しく、嬉しかったです。リサイクルは、環境を守り、人を喜ばせる、優しい技術だと思ったことを覚えていきます。

その授業があった次の日、私は母に、我が家は紙リサイクルに何をしているのかと尋ねました。母は、
「毎月古紙回収に新聞紙や雑紙を出しているよ。」

と教えてくれました。それまでは気にかけていなかった、紙をまとめる作業を手伝ってみようと思えました。そうすることで私も、紙リサイクルに協力し、限りある資源を守っていきたくて考えたからです。

私は最初、思っていたよりもたくさんの紙リサイクルに、こんなにも身近で取り組んでいたのだと少し驚きを感じました。けれど今は、もっとたくさんの紙リサイクルに協力してみたいと思っています。紙リサイクルは、地球を守る方法のうちの、重要な一つだと思っています。

私はこれからも紙リサイクルの活動に積極的に取り組み、自然を守る行動をしていきたいと思っています。また、身近な人にも紙リサイクルのことを伝えていきたいです。



古賀市立古賀東小学校 2年 大嶋 陽葵
かみが大へんしん



キッズ絵画アート教室 3年 山本 朝陽
かみは、リサイクルボックスにいれてね!





北九州市立北方小学校 4年 廣田 琴美
さあ、循環型社会へ、出発進行！



今治市立大三島中学校 1年 木村 佳奏
リサイクル is 紙ング





岩国市立岩国中学校 1年 瀬戸川 優衣
笑顔のリサイクル



岩国市立岩国中学校 1年 森本 穂乃佳
僕達の居場所





学校奨励賞 小学校部門

東京都

荒川区立第三日暮里小学校

応募作品数 257点 (作文 60点、ポスター 197点)

学校紹介

本校は、荒川区東日暮里にある、大正7年4月開校の106周年を迎える学校です。「夕焼け小焼け」は本校で教鞭をとられた中村雨紅先生が作詞し発表された作品で、現在も第二校歌として歌い継がれており、「夕焼け小焼けの学校」として地元の方からも親しまれています。紙のリサイクルを全校で大切に考え、校内各所で分別に力を入れて取り組んでいます。学校図書館活用教育にも長年取り組んでおり、子どもたちの読書への親しみや活用して探究していく力を育てています。



【沿革】

大正7(1918)年4月 開校

児童数 407名

学級数 14学級



学校奨励賞 中学校部門

広島県

広島市立二葉中学校

応募作品数 390点 (ポスター 390点)

学校紹介

本校は、昭和26年に創立され、二葉山の南に広がる豊かな自然と由緒ある歴史的環境の中、輝かしい歴史と伝統をもった学校です。地域清掃(クリーンマイタウン二葉)、地域緑化活動等のボランティア活動や地域による学習支援活動が認められ平成28年度「地域学校協働活動」推進に係る文部科学大臣表彰を受賞しました。これらの活動は今でも行われ本校の伝統としてなっており、子どもたち一人一人の健やかな成長につながっています。



【沿革】

昭和26(1951)年4月 開校

生徒数 740名

学級数 30学級

【応募学校数】 小学校：27校 中学校：94校 総数：121校

審査会ノミネート校・教室一覧

審査会にノミネートされた作品の応募校名・教室名一覧です。

作文小学生部門

青森県	おいらせ町立百石小学校
山形県	南陽市立沖郷小学校
茨城県	開智望小学校
東京都	荒川区立第三日暮里小学校
東京都	板橋区立向原小学校
東京都	杉並区立高井戸小学校
東京都	筑波大学附属小学校
東京都	東村山市立八坂小学校
東京都	こくご塾 KURU
岐阜県	岐阜市立三里小学校
岐阜県	土岐市立泉小学校
愛知県	大府市立大府小学校
大阪府	堺市立東深井小学校
兵庫県	神戸市立西灘小学校
愛媛県	愛媛大学教育学部附属小学校
福岡県	古賀市立古賀東小学校
福岡県	福岡市立玉川小学校
福岡県	明治学園小学校
宮崎県	宮崎市立江平小学校

作文中学生部門

埼玉県	行田市立長野中学校
埼玉県	戸田市立喜沢中学校
千葉県	麗澤中学・高等学校
東京都	昭和女子大学附属昭和中学校
神奈川県	横浜市立中川西中学校
新潟県	村上市立村上第一中学校
静岡県	静岡市立蒲原中学校
静岡県	静岡市立清水飯田中学校
愛知県	愛知教育大学附属岡崎中学校
大阪府	追手門学院大手前中学校
和歌山県	近畿大学附属新宮中学校
佐賀県	佐賀市立昭栄中学校

ポスター小学生部門

北海道	札幌市立資生館小学校
宮城県	紫山こども絵画造形教室
山形県	山形大学附属小学校
茨城県	龍ヶ崎市立八原小学校
埼玉県	熊谷市立石原小学校
千葉県	流山市立おおたかの森小学校
東京都	荒川区立第三日暮里小学校
東京都	西東京市立上向台小学校
神奈川県	アトリエ ENDO
神奈川県	いずみ野画室
新潟県	新潟大学附属新潟小学校
山梨県	駿台甲府小学校
岐阜県	土岐市立泉小学校
愛知県	キッズ絵画アート教室
三重県	こども絵画教室
京都府	京都市立藤ノ森小学校
大阪府	堺市立英彰小学校
大阪府	吹田市立佐井寺小学校
岡山県	倉敷市立万寿東小学校
岡山県	ノートルダム清心女子大学附属学校
福岡県	北九州市立北方小学校
福岡県	古賀市立古賀東小学校
福岡県	太宰府市立水城西小学校
佐賀県	有田町立有田中部小学校
鹿児島県	曾於市立岩川小学校

ポスター中学生部門

岩手県	花巻市立花巻中学校
福島県	棚倉町立棚倉中学校
群馬県	前橋市立鎌倉中学校
埼玉県	所沢市立狭山ヶ丘中学校
東京都	葛飾区立常盤中学校
神奈川県	川崎市立犬蔵中学校
富山県	富山市立新庄中学校
静岡県	沼津市立沼津高等学校中等部
静岡県	浜松市立三方原中学校
愛知県	刈谷市立依佐美中学校
愛知県	田原市立田原中学校
三重県	鈴鹿市立天栄中学校
大阪府	堺市立美木多中学校
大阪府	大阪市立董中学校
広島県	広島市立二葉中学校
山口県	岩国市立岩国中学校
愛媛県	今治市立大三島中学校
佐賀県	伊万里市立国見中学校
鹿児島県	始良市立重富中学校

※都道府県別・五十音順。団体・個人応募問わず。

公益財団法人古紙再生促進センターの活動

当センターは、小中学生を対象にした紙リサイクルに関する以下の取組みを行っています。
環境教育の1つとして是非ご活用ください。

紙リサイクル促進大使
「カミリイ」ちゃんと
「カミリイママ」



全国小中学生“紙リサイクル”コンテスト

毎年度、全国の小中学生に“紙リサイクル”に関する作文、ポスター作品の募集を行い、応募作品の中から優秀作品を選定し、受賞者を表彰しています。

第16回目となった
2024年度は
2,955点の応募が
ありました



【コンテストの内容】

募集対象 全国の小学生・中学生ならどなたでも

テーマ ・紙リサイクルに関する活動・体験やアイデア
・紙リサイクル活動と持続可能な社会づくり

募集部門 作文（小学生部門、中学生部門）
ポスター（小学生部門、中学生部門）

スケジュール 例年 5～6月 募集開始、秋頃締切

* 来年度の募集開始・応募締切は、新型コロナウイルスの状況より判断し、当センターホームページ等にてお知らせします。

賞と賞品

文部科学大臣賞 作文部門 1点、ポスター部門 1点
(賞状・楯・副賞図書カード 5万円)

金賞 各部門 1点 (賞状・楯・副賞図書カード 3万円)

特別金賞 3点 (賞状・楯・副賞図書カード 3万円)

銀賞 各部門 1点 (賞状・楯・副賞図書カード 1万円)

銅賞 12点 (賞状・副賞図書カード 2千円)

学校特別賞 2校以内 (賞状・副賞ギフトカード 5万円)

学校奨励賞 2校 (賞状・副賞ギフトカード 2万円)

参加賞 (応募者全員に記念品)

2024年度 応募数

応募点数	小学生	中学生	合計
作文部門	248	737	985
ポスター部門	587	1,383	1,970
合計	985	2,276	2,955

応募件数	小学校	中学校	合計
応募学校数	27	94	121
教室、塾など	8		
個人応募数	43	総件数	172

“オンライン”紙リサイクル出前授業

全国の学校を対象に
授業を実施します



講義風景（オンライン）



アニメ動画



手すきはがきづくり

紙リサイクルの大切さについて理解を深めてもらうことを目的に、主に小学生を対象に出前授業を行っています。コロナ禍に対応して、オンラインでの出前授業を開始しました。

なお、訪問型の出前授業も実施しています。

【出前授業の内容】

① 講義（45分）

〇×クイズやアニメ動画の視聴、パルプの実物見本の観察などを通して紙リサイクルについて学びます。

② 手すきはがきづくり（45分）

児童全員に古紙からハガキを作る体験をしてもらい、紙リサイクルのプロセスについて学びます。

* 上記以外のパターンにも対応可能です

※出前授業の実施に伴う費用は一切かかりません。

※訪問型の場合、地域によっては講師を確保できない場合があることをご承願います。

全国小中学生“紙リサイクル”コンテスト 2024
入賞者一覧・受賞作品 作品集

企画・発行

公益財団法人古紙再生促進センター

<http://www.prpc.or.jp/>

〒104-0042 東京都中央区入船3丁目10番9号 新富町ビル4F

TEL: 03-3537-6822 FAX: 03-3537-6823



古紙再生促進センターは2024年で創立50周年を迎えました

本作品集はWebサイトからもご覧いただけます



http://www.prpc.or.jp/activities/public_relations/award/